

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297300028		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム袋井 (東ユニット・西ユニット合同)		
所在地	静岡県袋井市堀越2丁目14-1		
自己評価作成日	平成25年12月5日	評価結果市町村受理日	平成26年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&Ijigvosocd=2297300028-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成25年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

したいこと、出来ることについては可能な限り入居者様に行き届けるように支援に努めています。日常生活の中で入居者様が主体となって過ごして頂けるように、職員は生活の場としての空気を壊さないように努めています。
ホーム周辺は住宅に囲まれており、すぐ目の前には公園、グラウンドがあり散歩のコースとなっています。
平屋作りの為、各ユニット間の交流を持ちやすく、入居者様には閉塞感を感じない作りとなっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全国チェーン店もすぐ近くに立ち並ぶ場所にありながら、子ども達の声でにぎわう公園やグラウンドが目に入る事業所です。かねてより力を入れてきた外出支援では、在宅の頃からの趣味を継続するために体育館に通ったり、行きたい場所を掘り起こして故郷を懐かしむドライブ、浴衣や甚平に身を包んで出かける地域の納涼祭へと、想いを汲み取った本人本位の企画に昇華しています。さらに保有機能維持と活性化を生み出し、また要望に応えるたびに変わる利用者の表情は、職員自身のやりがいに結びついています。「人が好き」「働くことが楽しい」と言う職員が集い意気揚々と語るフレッシュなリーダーの躍進が期待されます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームビジョンを毎朝の朝礼時に唱和している。	朝礼やユニット会議、全体会議に唱和して話し合う機会をもっています。“自宅に住んでいるような気持ちで想いを素直に言えるホーム”実現に向け、職員も環境の一部として利用者の前での業務連絡を慎んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域との繋がりを深める為、納涼祭、地域の防災訓練に参加している。	地区の納涼祭には浴衣や甚平で出かけ、防災訓練への参加も果たしました。公民館での催し“ほほえみの会”での交流もあります。職業体験や実習生の受入れ、フラダンスや手品といったボランティアも多彩です。	積極的に地域行事に出向き交流を図っていますが、事業所に招く機会を設けるなど認知度を上げる取り組みを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、ホームの現状を地域の方にお知らせしているが、地域に対しての広報活動は不十分である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様、地域の方をお招きして、取り組みや行事の報告を行っている。	定期開催し地域包括支援センター職員、正副自治会長、民生委員、家族の出席があります。地域リーダーから行事の情報が毎回挙がり、運営への質疑応答も丁寧に行われており、地域との関係構築を確認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に運営推進会議の議事録を提出している。	議事録は直接窓口まで届け、担当者とは丁寧にご相談に応じてもらえる関係にあります。地域包括支援センター職員からは、市主催のグループホーム会議の紹介や様々な助言があり、運営の支えとなっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム主催の勉強会などで身体拘束をしないケアについて理解を深めるようにしている。玄関の施錠については事務所職員がいる時は開錠するようにしている。	身体拘束ゼロ宣言をしています。夜間を除き玄関は施錠せず、外出したい時には職員が付き添います。「ちょっと待ってて」の声かけには理由を添える、優先順位を替えるといった方法を勉強会で学び、職員は言葉遣いについて互いに注意しあえています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が事業所内での虐待については注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会をホームの勉強会にて実施していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は文書の読み合わせを行い、十分な時間をかけて説明して納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時の意見、ご家族様へのアンケートの結果を反映している。	アンケート結果は周知して職員全体で検討しています。面会では傾聴を心がけ、遠方の家族には事業所便り「ふくろう通信」に近況、写真を添えて送っています。小さな状態変化でも電話連絡をしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、全体会議を月に1回ずつ実施して職員の意見を聞いている。また、職員アンケートを実施している。	個別面談は随時行っています。会議では予め意見を持ち寄っていますが、出席できない人や大勢の前で発言できない職員には事前に声をかけて聞いています。	モチベーション維持のため職員の要望は積極的に取り入れているとのことでしたが、今後は「何を求めているか」といっためやすや目標を示すことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回、スタッフの評価を行い、個別面談を実施し勤務状況、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の勉強会があり、ケアについて学ぶ機会がある。職員へはその都度気になる部分の助言、指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと互いに交流を持つようにして情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問、面接時にご本人、ご家族様からお話を聞きアセスメントシートを使用して、安心してサービスを受けられるような関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居見学时より、ご家族様の話をしっかり聞き、不安、要望などを確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、外部の事業所の紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理、掃除などを一緒に行うことにより、良い関係が築けるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回の通信にて、ご入居様の様子を伝えている。また、ご家族様の面会時には情報を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅の時から趣味である卓球を続けている人、お寺に行く人、通いなれた病院への通院等を行い、馴染みの人や場所との関係が途切れないようにしている。	体育館へ卓球を、映画好きな人には映画館へ、といった支援があります。お寺に出かけて住職との会話や教え子の訪問に有意義な時間を過ごし、自宅への外泊、ユニットの仲間で好きな晩酌を楽しむ人たちもいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩、行事、買い物などにより、ご入居様同士が関わりを持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来る限り関係を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中でご入居者様とお話をして把握に努めている。小さな変化も見逃さないようにしていきたい。	茶話や外出先では普段より多くの会話が聞かれます。また、アルバムから発語も増えるため、できるだけ持ってきてもらうようお願いしています。把握した情報は介護記録や日報、朝礼で共有しプランに反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントにて、ご家族様より聞き取りを行い、情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報、介護記録、アセスメントシート、申し送りノートにて情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送り、日報、介護記録より現状を把握して担当者会議にて意見を収集している。ご家族様の出席は今後の課題である。	3ヶ月に一度、変化が生じた時は訪問看護に状態を確認し、都度見直しモニタリングは全員で行っています。面会を利用して家族意見を聞き、チームケアに繋げています。作成したプランは介護記録に綴じています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り、日報などを活用して情報収集を行い、介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	アセスメント、担当者会議にて個々の状況を把握して状況に応じた個別サービスを実施して柔軟に対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の行事、公園に散歩に出かけている。また、飲食店、カラオケも歩いて数分の場所にあり活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医との良好な関係のもと、ご家族様の協力を得ながら健康管理に努めている。	ほとんどの人が協力医に変更していて、月に一度の往診と、緊急時の24時間対応もあり安心です。かかりつけ医への受診は基本的に家族にお願いしています。訪問歯科は隔週、看護師の訪問は毎週あります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療面に関しては看護師に相談し情報の共有を図り、状況に応じて受診等につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関 中東遠総合医療センター 往診医との連携をとり、検査等を実施して協力関係が築けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期については入居時に説明、同意して頂いているが、変化があった時にはその都度ご家族様との話し合いを行い、今後の方針を決めている。	状態の変化により話し合いの場を設け、家族の希望に沿いながら医療と連携を図り、事業所としてできるだけ支援に取り組んでいく考えですが、職員からは不安の声もあがっています。受け入れ態勢を整えるべく会議では終末期の話し合いを行っています。	緊急時のマニュアルは周知されていますが、マニュアルについては定期的な見直しを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の連絡体制については、マニュアルにて周知を図っているが、訓練に関しては定期的に行っていない状態である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練にて避難等の訓練を行っている。地域の防災訓練には職員、ご入居者様が数名参加しているが、協力体制に関しては不十分な状態である。	年2回、火災・地震の想定で行っています。消防署への通報と夜間訓練を実施し、利用者と地域防災訓練にも参加しました。運営推進会議では防災の議題があがり、地域の協力を得るためのアドバイスももらっています。	AEDの講習会などを通して地域へ呼びかけを行い、緊急時の協力体制が得られることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様に応じた対応をしているつもりですが、まだ不十分な状態である。勉強会などの学ぶ機会を定期的に設けていきたい。	居室のドアはノックして入る、排泄介助では外で待つ、入浴場面ではタオルで露出を避けるといった配慮をしています。丁寧な言葉遣いが良いのではなく場面に応じた声かけが大事と考え、勉強会を開催する予定です。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションより、本人の思い、希望を汲み取り、実現できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の希望に完全には沿うことが難しく、ホームの予定に合わせていることが多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等、ご自分で洗濯出来る方には自由に選んで頂き、化粧、髭剃り、髪をとかすなど身だしなみへの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な範囲で好みに関しては個別に配慮している。食事の下ごしらえ等のお手伝いをしている。メニューを書き写してお知らせしている。	誕生日にはお赤飯や好物で祝い、クリスマス、おせちと時節ごとの楽しみがあります。2ヶ月に一度のペースで外出に出かけ、畑で採れたさつま芋を使ったおやつ作りではプリンやスイートポテトが喜ばれました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表にて、摂取量等を把握して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の実施は出来ていないが、夕食後は全員に実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して状態の把握をしている。出来る限り自立にて排泄して頂けるように支援している。	車椅子の人も日中はトイレでの排泄を基本とし、リハビリパンツから布パンツへ改善した例もあります。「トイレ」と誘うより動きに乗じて自然に声かけするよう指導しています。きなこヨーグルトが便秘予防に役立っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を活用して状態の把握をしている。状態に応じて散歩などの体を動かす機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には午前入浴としている。可能な限り入居者様の希望に沿って、入浴の回数、順序等に配慮している。	週2回をめやすとし同性介助や毎日の入浴希望にも応えています。好みに合った洗いタオルや入浴剤が用意され、「一番湯がいい」「ぬるめがいい」との声に応え一対一の時間がゆっくりとれることで満足感を得ています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣に応じて入室時間、起床時間は配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬の使用開始や切り替え時も含め、症状の変化や確認の努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々に応じた役割や楽しみを提供。職員間で話し合いを持ち、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に関しては天候、体調を見ながら日課としている。外出に関しても出来る限り実施している。	目の前がクランドや公園という環境もあり、車椅子でも全員が散歩に出かけていて、住宅街を一時間かけて歩く人もいます。スーパーでの買い物やカラオケ、喫茶店、外食は恒例で、個人の思い出の場所を掘り起こしながら職員自身も楽しめる外出が実施されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所、金庫内にて管理。外出時などでお金が必要な時にお金を所持できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある方に関しては電話、手紙等でやり取りができるように支援している。また、クリスマスカード、年賀状作成の取り組みをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感、生活感を感じられ、居心地良く過ごせるような雰囲気作りをしている。	テレビの前にソファを置き、食べる場とくつろぐ場を分けたことで会話が増え居心地のよさが覗えます。長い廊下での往来で東西ユニットの交流や気分転換にも寄与しています。利用者目線での温度調整・湿度に留意し、清掃は時間を決めて取り組んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを配置して利用者様同士が交流を持てる居場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力にてご自宅で使用していた馴染みの物を居室に配置することにより、居心地の良い居室になるように工夫している。	収納スペースが2ヶ所あり、広さを確保できません。読書好きな人は本が並び、手紙をしたためるテーブルセットや家族の写真、仏壇などその人らしさが伝わります。畳に布団を敷いて生活習慣を継続している人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が、自分の力を極力使って生活出来るようにホーム内のいろんなところに手すりが付いている。		